

執筆者紹介

おがわ けん 小川 健 本学経済学部准教授
なかむら ひさき 中村 尚樹 本研究所客員研究員

〈編集後記〉

No. 646 には、2 本の論稿が収められている。

小川健所員による「加重相乗平均の加重相加平均による近似～関数電卓なしに実効為替レートは近似計算可能か～」は、通常の電卓を用いて、国際金融における実効為替レートを近似的に計算する方法を模索する。関数電卓を持っていない場合が多いという、経済学部で学ぶ学生諸君の事情をふまえて執筆された意欲作であり、門外漢である編集子も大きな刺激を受けると同時に、大いに学ばせていただいた。今後の経済学部における教育、授業および試験のあり方について、ひとつの新しい可能性を提示した論稿といえるであろう。

中村尚樹客員研究員による「琉球弧に見る非暴力抵抗運動～奄美と沖縄の祖国復帰闘争史～」は、現在の沖縄県だけではなく鹿児島県の大隅諸島や奄美群島を含む「琉球弧」を対象に、現在もなお続く非暴力抵抗運動の歴史的展開を克明に描いている。琉球弧の非暴力抵抗運動は、「国あるいは県という人為的な境界線」で引き裂かれてきたその歴史に立ち向かってきた。本稿では、奄美の本国復帰運動および沖縄の反基地闘争の過程と意義が検証される。その上で筆者は、2つの運動・闘争を、いずれもガンジーが提唱した非暴力平和運動の正統な流れを受け継ぐ取り組みとして、注目されるべき実績と評価している。沖縄の反基地闘争の歴史的な起源・過程のみならず、それが現在直面している諸問題の実像を知る上でも貴重な論稿である。

なお、本年4月より、社会科学研究所は新体制となりました。引き続き編集担当のチーフを務めさせていただきます。微力ではありますが、所員のみなさまにご協力をお願いしながら、宮寄晃臣所長、樋口博美事務局長のお手伝いをさせていただき所存です。いたらない点が多々あるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(M)

2017年4月20日発行

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 村上俊介

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
